

2. 活動報告

(1) 2009 年度・春季ユネスコ・スクール・ネットワーク研修会

実施日：2009 年 3 月 27 日

場 所：宮城教育大学中会議室

宮城県内で新規にユネスコ・スクールに加盟した学校が集まり、情報交換を行う目的で開催した。参加校紹介、県内ユネスコ・スクールのためのリソース紹介、環境教育実践研究センターから（斉藤千映美先生）・国際理解教育研究センターから（市瀬智紀）、次年度活動計画について（質疑応答）、ユネスコ・スクール・ネットワーク ホームページの活用について、昼食と懇談が随時行われた。会議には宮城県南部のユネスコ・スクールが参加した他、宮城県義務教育課から担当者の参加があった。

(2) 気仙沼 ESD/ユネスコ・スクール研修会～県内の現状と宮城教育大学の連携～

実施日：2009 年 5 月 8 日

場 所：気仙沼中学校

この研修会は、①ユネスコ・スクールの活動目的についての理解を深めるとともに、国内外のユネスコ・スクールの事例紹介や市内各校の情報交換を通して、ESD（持続発展教育）を学校教育の中で推進していくためのユネスコ・スクールの実践の在り方を検討する。②文部科学省の『「ユネスコ・スクール」ホームページ』の理解と活用を図り、ユネスコ・スクールのネットワーク（ASP-net）に参加する学校間での情報共有を促進する、という 2 つの目的で開催された。ユネスコ・スクールと ESD のガイダンス 市内各校の ASP のテーマや取組の情報交換、ユネスコ・アジア文化センター（ACCU）のユネスコ・スクール支援事業と公式ホームページ活用方法について順次講義と演習を行った。気仙沼市内のユネスコ・スクール加盟校・加盟希望校 30 校の教員が集まった。本研修会は、気仙沼市教育委員会、宮城教育大学、(財)ユネスコ・アジア文化センター（ACCU）、気仙沼 ESD/RCE 推進委員会、気仙沼市・宮城教育大学連携センターの主催。

(3) 宮城教育大学グリーンウェイブ活動

実施日：2009 年 5 月 22 日

場 所：宮城教育大学 2 号館前

宮城教育大学は、国連の生物多様性条約事務局が、5 月 22 日の「国際生物多様性の日」に、世界各地の青少年の手で、それぞれの学校の敷地などに植樹を行おうと呼びかけているグリーンウェイブ活動に参加した。

高橋学長・各理事・ユネスコ・スクールの普及を支援する国際理解教育研究センターや環境教育実践研究センターの各センター長、および地域を挙げて気仙沼市教育委員会白幡教育長も参加し、宮城県の花・仙台市の花に指定されている萩（ミヤギノハギ）を学内の

バタフライガーデンに植えた。

(4) 気仙沼 ESD/RCE 推進会議 2009～子どもと地域の未来を拓く円卓会議 2009～

実施日：2009年7月8日

場 所：気仙沼市立面瀬中学校

この会議の目的は、①海外や国内の専門機関及び地域の専門家の助言をもとに、気仙沼市の環境教育及び国際理解教育等の「持続可能な開発のための教育」(ESD)の学習プログラムを改善し、気仙沼市の ESD の実践の向上をめざす。②国連大学の「国連・持続可能な開発のための教育の地域の拠点」(ESD/RCE)のモデルとして、気仙沼市の小・中学校及び高等学校と、地域の諸機関や大学等の専門機関との連携の充実を図り、ESDのための地域の推進体制を整備する。③全国最多のユネスコ・スクール(加盟16校、申請10校)を核とする市内各校の ESD の優良事例を共有し、学校教育における ESD の更なる普及・推進を図る。④仙台広域圏 ESD/RCE の他地域(仙台、大崎田尻、白石・七ヶ宿)のそれぞれの ESD の取組の特色やよさを学び合うことで、広域圏としての連携・協力体制を築くことを目的として開催された。当日参加者は100名で、本学に訪問研究員として滞在中の協定校ウィリアム・クローエン氏に特に講師として講演をお願いした。

気仙沼市教育委員会・宮城教育大学・気仙沼 ESD/ECE 推進委員会・仙台広域圏 ESD/RCE 運営委員会、気仙沼市・宮城教育大連携センターの主催。

(5) 小学校英語教育研修

実施日：平成21年8月5日～21日

場所：オーストラリア・CQ(セントラルクィーンズランド)大学

小学校の5・6年次において必修化される英語活動の現状を踏まえて、県内各地域に呼びかけて参加者をつくり、協定校の CQ(セントラル・クィーンズランド)大学で教員研修を行った。内容は、①CQU ランゲージセンターにおいて英語力のブラッシュ・アップ。②CQU において外国語習得や外国語指導に関する基礎的な理論を学ぶ。③オーストラリアの学校を訪問し、現地の教育(外国語教育を含む)について理解を深める。④ホームステイを通してオーストラリアの社会や文化に親しむ、である。本年は大崎市、石巻市、仙台市から5名の現職教員が参加した。

(6) 日本語を母語としない子どもと親のための進路ガイダンス 2009 宮城

実施日：2009年10月25日

場 所：仙台市中央市民センター

日本の高校に進学したいと考える日本語を母語としない親子のための進学説明会および相談会。高校とはどのようなシステムなのか、入学するにはどのようにすればよいのか。県立高校と私立高校の違いなどについて説明した。また、先輩からの体験報告も行われた。

当日は、外国にルーツを持つ子供とその家族 60 名が参加した。宮城進路ガイダンス実行委員会の主催。宮城教育大学附属国際理解教育研究センターはその構成メンバー。

(7) ウェスレー大学学長講演会

実施日：2009 年 11 月 20 日

場 所：宮城教育大学 229 番教室

米国デラウェア州ドーバー市のウェスレー大学と本学との交流は、2001 年から始まった。今日まで、本学から 11 名の短期留学生を送り出し、延べ 13 名の教員が相互訪問している。

宮城県とデラウェア州の姉妹州関係、ドーバー市と岩沼市との友好都市関係、そして宮城教育大学と岩沼市との連携協定が、この交流の基礎になっている。このような交流実績を踏まえて、このたび本学とウェスレー大学が交流に関する覚書を締結することになりました。覚書の締結にあわせてウェスレー大学長ジョンストン氏、学務担当ドゥアイヤー氏が来学し、記念講演会を開催した。当日参加者 60 名。

(8) 『みやぎ教育月間』記念講演・文化遺産実践発表会 笑いあり、歌あり世界文化遺産 出前～！高座

実施日：2009 年 11 月 30 日

場 所：気仙沼市本吉町はまなすの館 はまなすホール

「みやぎ教育月間」にちなんで、ユネスコや世界・地域の文化遺産と伝統文化に対する関心と理解を深め、未来に生きる子供たちを育む教育のあり方について考える機会とすること目的として開催した。当日は、基調講演「平泉藤原氏と三陸の海の世界」岩手大学教育学部日本史研究室菅野文夫教授、地域遺産実践発表・気仙沼市立月立小学校（「地域遺産教育」実践校：ASP 申請校）と、落語家桂幸丸師匠による世界文化遺産高座が順次オオなわれた。参加者は 100 名。本吉地方教育委員会協議会（財）ユネスコ・アジア文化センター（ACCU）、宮城教育大学、気仙沼ユネスコ協会、宮城県退職校長会本吉支部気仙沼市立学校長会、気仙沼市立学校教頭会の主催。

(9) 外国人児童のためのリライト教材講演会

実施日：2009 年 12 月 8 日 16：20～18：20

場所：宮城教育大学 631 教室

「外国人こども日本語サポートの会」の代表・田所希衣子氏を講師に招き、リライト教材の概要や目的、作成上の注意とポイント、利用方法などについて、ワークショップ形式の講義をしていただいた。講義では、教員と学部学生 30 名が、小学校 3 年生の教科書の教材をもとにしたリライト教材を作成しながら、リライト教材への理解を深めた。

(10) 「ユネスコ・スクール全国ワークショップ(ダブルネット・ワークショップ)」

実施日：2009年12月26日～28日

場 所：東京国際交流館

東京お台場の東京国際交流館において、全国のユネスコ・スクール(ASPnet)とその支援を目指す「ユネスコ・スクール支援大学間ネットワーク」11校(ASPUnivNet:加盟校は北教大釧路校 ESD センター、岩手大、東北大大学院環境科学研究科、宮教大、玉川大教育学部、金沢大、三重大、奈良教大、大阪府大、岡山大及び九大大学院言語文化研究院)によるワークショップが開催された。この事業は文部科学省「日本/ユネスコ パートナースhip事業」によるもので、以下の目的のために企画した。

- ①ユネスコ・スクールへの全国各地域における加盟促進と実践の質向上
- ②支援大学とユネスコ・スクール、全国のESD実践者との交流促進
- ③国際的な学校間連携を促進させる「フラッグシップ・プロジェクト」の展開

初日26日は、ASPUnivNet 今年度代表の宮城教育大学高橋学長の式辞、スウェーデン教育庁、ユネスコ・バンコクオフィスからの基調講演を皮切りにASP及びASPUnivNetからそれぞれの優良実践事例の講演、さらに「地域」「食」「文化」「エネルギー」「国際理解」の五つの分科会ごとに、それぞれのモデルカリキュラム構築作業を延べ2日間、夜半まで取り組みました。最終日には各分科会の発表を軸に情報共有作業が行われ活発な意見交換と質疑応答など盛況のうちに閉会した。

今後、国内の学校がASPUnivNetと協働し、ネットワークの拡大と、海外のユネスコ・スクールとの交流が活発になることが期待される。

(11) 宮城国際理解教育推進連絡会議

「国際理解教育の学校訪問プログラム 合同報告会 2009」

実施日：2010年1月18日

場 所：仙台国際センター、

本センターが主催し、(独)国際協力機構東北支部及び(財)仙台国際交流協会の共催で、宮城県内における国際理解教育への理解・実践の普及を図るため、県内の国際理解教育に関わる機関(並びに教員組織)が集り、意見交換並びに有用な情報交換を行うことを目的に開催している会議。参加者機関は、宮城教育大学、岩沼市教育委員会、宮城県高等学校国際教育研究会、(独)国際協力機構東北支部、(財)仙台国際交流協会、宮城県国際理解教育研究会、みやぎ開発教育ネットワーク、(財)宮城県国際交流協会、(特活)国際ボランティアセンター山形の計9団体。

1月18日の合同報告会では、推進会議の実践事例の発表会を行った。「留学生が行く!～ことばや文化を学ぶ国際理解講座」、「JICAボランティアが行く!～国際協力出前講座」「非英語圏の在住外国人が行く!～英語を使った国際理解教育」の実践事例発表である。当日は、学校教員をはじめとする関係者約60名が参加した。

なお、推進連絡会は、1月18日の実践報告会のほか年2回連絡会議を開催している。

(12) 日韓 ESD フォーラム／ユネスコ・スクール東北地域フォーラム in 気仙沼

実施日：2010年1月21日

場 所：はまなすの館 はまなすホール

ユネスコ・スクール東北大会を、ESDに早くから取り組む気仙沼市で開催し、東北および韓国のユネスコ・スクールの ESD の実践について相互交流を図りながら学びあうことは、ESD の理解を一層深め、日本および韓国の ESD のさらなる普及発展とその実践の充実に寄与する。

基調講演は「ESD 推進におけるユネスコ・スクールへの期待と大学間支援ネットワーク (ASPUnivNet) の役割」として宮城教育大学 理事(総務担当)・副学長 見上一幸が行った。実践発表は小学校セッション、中学校セッション、高校セッションにわかれて、東北地方のユネスコ・スクール9校が発表した。シンポジウムは、ACCU 韓国訪問団 代表「韓国における ESD 推進に向けたユネスコ・スクールの取組」の発表、つづいて、パネルディスカッションが行われた。

フォーラムには教育関係者を始め、東北地域のユネスコ関係者や(財)ユネスコ・アジア文化センター「日韓交流プログラム」で気仙沼訪問中の韓国教職員らを変え、200名を越す参加があった。

(13) 外国にルーツをもつ子供(外国籍児童生徒)の教育と学校教員について考える研究会

実施日：2010年2月13日

場 所：宮城教育大学 5号館3階 附属国際理解教育研究センター演習室

現在、全国各地の学校で、日本語・日本文化とは異なる多様な言語文化背景をもつ子どもたちが、学んでいます。この子ども達への教育を担う教員は、それにどう対応し、何が求められているのか。東京学芸大学、横浜国立大学、信州大学、愛知教育大学、京都教育大学、宮城教育大学の6教員養成系大学の研究グループと、地域で実践者がともに集まって議論することを目的に開催された。信州大学徳井厚子准教授、横浜国立大学、西川純子准教授の発表のあと、教員、行政、ボランティア、大学院生による討論会が行われた。当日の参加者は25名。

2. 活動報告(そのほかの事業)

1. 「学校教育における国際理解教育の実践に向けての今後の展望・将来的ビジョン～」仙台市教育委員会『平成21年度 国際理解教育研修会』仙台市教育センター、2009年8月20日、講演

2. 第24回日本国際保健医療学会学術大会主催・宮城教育大学／岡山大学 ユネスコチェ

アプログラム共催「第24回日本国際保健医療学会学術大会 市民フォーラム」せんだいメディアテーク 1F オープンスクエア、2009年8月4日、コメンテーター。

3. 第27回開発教育全国研究集会・仙台大会「くらしと世界をむすぶ学び みちのくから考える共に生きる“地球社会”づくり」東北大学川内キャンパス、2009年8月9日、「外国につながりを持つ子どもたちの教育と未来」分科会、司会。

4. 「宮城県多文化共生社会推進計画の策定経緯と最近の多文化共生に関する動き」宮城県国際政策課『平成21年度宮城県多文化共生市町村研修会』宮城県庁、2009年9月3日。講演。

5. 「地域の多文化化・国際化に対応できる学校現場」宮城県国際政策課『平成21年度宮城県多文化共生研修会（学校教育分野）』宮城県庁、2009年11月2日、講演。

6. 「国際理解教育としての海外教育旅行」仙台空港国際化利用促進協議会『海外協力旅行セミナー』宮城県庁、2009年11月10日、講演。

7. 「外国籍児童生徒を取りまく現状と課題」宮城県・宮城県人権啓発活動ネットワーク協議会『多文化共生シンポジウム in 仙台』仙台国際センター、2009年12月14日、講演。

8. 国際協力機構 JICA 主催「JICA 国際協力高校生エッセイコンテスト2009」2009年11月10日、JICA 東北支部、二次審査・審査会委員。

9. 福島大学、(財)福島県国際交流協会、岩手大学国際交流センター「日本語学習支援ネットワーク会議」福島大学、2009年11月21日、分科会、司会者。

10. 国連大学主催「国連大学グローバルセミナー 第8回東北セッション」仙台国際センター・モンタナリポート岩沼、2009年11月21日～23日、2プログラム委員。